

三菱
零式艦上戦闘機 63型

ハセガワ 1/100スケールプラスチックキット
製作・文 政府開発援助

1. 零戦63型について

ミッドウェー海戦以降、海軍機動部隊は急ごしらえの航空母艦で再編されたが、これら航空母艦の多くは爆撃機の運用が出来るだけの飛行甲板長が無かった。そこで、発着能力の優れた零戦に爆弾を搭載することが計画された。零戦63型は53丙型の胴体下部に埋め込み式の爆弾架を設置し、25番爆弾の搭載を可能にしたタイプである。重量増加を軽減する為、機首左側の7.7mm機銃は撤去された。

2. キットについて

ワンアワーコインシリーズとして展開されているもの(形状は全て同一)の内、今回は現地応急迷彩型のキットを使用しました。キャノピー枠と主要部品が塗装されたはめ込み式のキットで、どちらかというと入門用キットの様な仕様ながらプロポーション・モールドともきちりしています。

3. 製作と塗装について

カウリング・コクピット・脚収納部・主脚カバー等に定番の工作を施しています。今回から着艦フックも追加しています。カウリング右側の機銃口をひと回り大きくし、翼下面には52丙型に準じたロケット弾止め金具や翼内機銃ハッチのふくらみを追加し、20mm機銃をステンレス線で、13mm機銃を伸ばしランナーの先端を細くして再現しました。63型固有の装備である埋め込み式の爆弾架は伸ばし角棒より切り出し、ジャンクパーツを加工して25番爆弾(着脱可)を自作しました。

塗装はラッカー系の明灰白色の缶スプレーを吹いた後、筆塗りにより上面をラッカー系の濃緑色で塗り分けました。63型と云えばやはり琵琶湖の零戦が思い浮かびます。実機写真を参考に機番デカールを起こし、写真を見ながら塗り分けました。中島製の塗り分けパターンです。カウリング・プロペラブレード・スピナー・機体内部・25番爆弾もラッカー系カラーです。味方識別色はエナメル系カラーを調合した黄橙色、主脚収納部にはエナメル系の青竹色を流しました。フチ無しの日丸は迷彩型キット付属のデカールです。墨入れはガンダムマーカーを使い分け、クリアーでオーバーコートしました。



前方より



後方より

4. 途中画像



カウリング右側の機銃口を拡げて13mm機銃を表現。左側は胴体の銃口のみ塞いだ。



自作のゲージパーツを用いて機銃排莢孔の位置決めを行い、焼印方式で再現した。



主脚収納部を拡大し、追加工作をほぼ終えた翼下面。中央は埋め込み式の爆弾架。



着艦フックは0.5mm プラ板より作成。25番爆弾の安定板は紙に瞬着を染み込ませた。